

自分なりの考えをもち、相手と伝え合うことができる児童の育成
～ 主体的に課題を解決しようとする授業の組立て ～

いちき串木野市立羽島小学校

1 研究のねらい

本校の児童は、与えられた課題を意欲的に解いたり、決められた役割に対して責任をもって取り組んだりすることができる。しかし、学校生活の様々な場面で受け身になったり、難しい課題に直面したときに自力で解決しようとする意識が低かったりするという課題があった。そこで、授業を通して児童らに課題解決する経験を繰り返し体験させ、授業で培った力を授業以外の学校生活や学校を離れた生活の中でも発揮することができるようにすることを目的としている。

2 研究の概要

研究テーマに関して、2つの仮説を設定した。

① 仮説1

課題を正確に捉え、見通しをもって活動することで、自分なりの考えをもつことができるのではないか。(具体物、半具体物、映像などの活用、ICTの活用、既習事項の振り返り等)

② 仮説2

友達と考えを共有し合うことで、自分たちで課題を解決できるようになるのではないか。

(正確に他者に伝える方法の習得、類似点や相違点を比較しながら聞く、交流後に考え直すなどの活動を通して)

この仮説を検証するため、「見通しをもたせる導入の実施」「問題解決に繋がる共有の場の設定」を意識した授業づくりを行った。

3 研究の内容

(1) 見通しをもたせる導入

見通しには「考え方の見通し」「学習の流れの見通し」「答えの見通し」「時間の見通し」の4つがあると考え、教科や単元の内容に応じて必要と思われる見通しを、導入段階で担任が意図的にもたせる授業づくりを行った。

(2) 問題解決につながる共有の場の設定

授業のある場面を共有の場として設定するのではなく、授業の中のあらゆる場面で考えを共有させるようにした。学習問題を考えたり、問題の解き方を比較したり、場面や展開に関係なく自由に共有させることで、課題を解決する方法を経験させた。

4 研究の実際

(1) 見通しをもたせる導入

複式の授業において「同時導入」を実施した。同領域の単元において、数値のみを変えることにより、2学年同時に導入を行い、それぞれの学年の学習課題のねらいや違いを考えさせた。このようにすることで、下学年の児童は上学年の考え方を参考に自分たちの活動の見通しをもつことができた。また、上学年の児童は、既習事項を振り返り、自分たちの活動に生かすことができた。



写真1 同時導入の様子

(2) 問題解決につながる共有の場の設定

授業の中で「共有」の場面を意図的に設定するのではなく、あらゆる場面で共有させた。学習課題を捉える場面、学習問題を考える場面、問題の解き方を比較する場面、授業のまとめをする場面

など、いつでも自由に共有させた。このようにすることで、どうすれば目の前の課題を解決することができるのかを考えさせたり、実際に課題を解決する経験を積ませたりすることができた。

(3) 授業での経験を生かす場の設定

授業の中で身に付けた課題解決の方法を、授業以外の活動で発揮する場面を設定した。学校行事の中での活動、委員会活動の発表、校外活動など、様々な場面で授業で培った力を発揮させることで、意欲的に課題を解決しようとする態度を養い、また、自己肯定感を高めさせることができた。



写真2 解決方法の共有



写真3 発表に対する感想

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ア 児童の課題を自ら解決しようとする態度が育ってきた。
- イ 自分たちで見通しをもって学習を進めることができるようになった。
- ウ 修学旅行でお土産の値段や個数に合わせて事前の計画を変更しながら買い物をするなど、授業以外の場面でも自分たちで考えて活動することができるようになった。

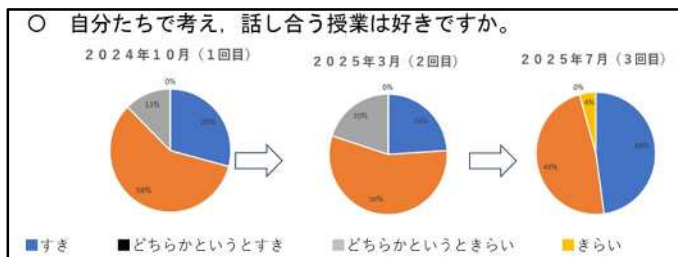


図1 授業に対する児童へのアンケート結果

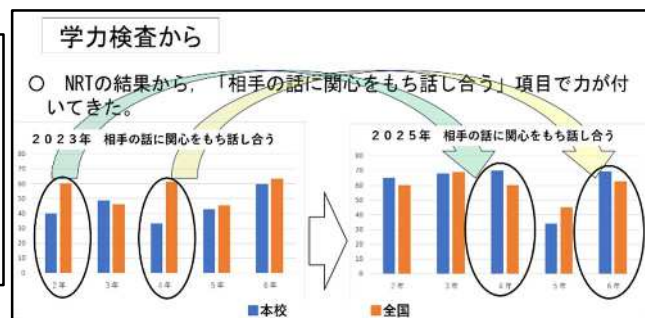


図2 学力検査による全国との比較

(2) 課題

- ア 自分から話合いに参加することを苦手としている児童が一定数存在する。
- イ 全ての児童の学力の向上につながっていない可能性がある。

6 今後の取組

研究のまとめからも分かるように、本校が取り組んできた研究については、一定の成果があったと捉えている。児童の授業における態度の変容、学校生活の様々な場面での成長など、研修による成果を多くの機会に感じることができている。また、学力検査の結果からも児童に力が付いてきていることを捉えることができた。

反面、本校の全ての児童が安心して授業に臨んでいるかというところではなく、自分たちで見通しをもって進めていく授業に対して、負担を感じている児童も存在している。今後は、全ての児童が安心して授業に臨むことができ、課題解決できる力を身に付けることができる授業づくりに取り組んでいく必要がある。

複式授業においては、「ガイド学習」「学習者主体の授業づくり」「ICTの活用」など、取り組むべき内容が非常に多い。全てのことを一度に取り組むことは難しいので、学校の実情、児童の実態などを正確に把握しながら、学校としての方向性を示し、全職員が同じビジョンをもちながら、今後も児童の成長につながる教育活動に取り組んでいきたい。